

## 2012年度「保育実習Ⅱ」の報告と今後の課題

浜野 兼一

### 1. 保育実習Ⅱのねらい

2年次に行われる保育実習Ⅱは、1年次における保育実習Ⅰの保育所実習で学んだことを基礎として、実習への意欲、態度、知識、技術などを発展的に深化させることを目的としている。したがって、実習の内容は、観察・参加、部分実習に加えて全日実習までをカバーしている。これらのうち、部分実習及び全日実習では、実習生自身が指導計画の立案から諸活動の組み立てまでを作成して実習にあたるため、事前の準備が不可欠となる。実習生が実習園において責任を伴う実習を経験することで、園生活をおくる乳幼児への理解や実際生活上における関わり方の学びを深めるとともに、保育における援助、指導技術の向上をはかる。

### 2. 今年度の保育実習Ⅱ

#### (1) 保育実習Ⅱ事前指導

資格取得希望者93名は、2年次前期からはじまる「保育実習Ⅱ事前事後指導」を受講した。事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを踏まえて、保育実習Ⅱに求められる実践意欲や態度などを念頭に置きながら、実習の目的や意義といった基本的事項の確認を徹底することに努めた。事前指導のなかでは、数年来の懸念材料となっている「書くこと」に対する実習生の基礎力確認と動機づけを高める工夫を試みた。これを踏まえて、実習園で必ず書かなければならない指導案の位置づけや実習日誌に対する基本的な心構えや書き方などを指導した。

#### (2) 実習の状況

事前指導を経て、夏季休暇期間の7月～9月を中心に実習が行われた。保育実習Ⅰの振り返りが十分にできていた実習生は、自分の実習目標に基づいた準備を的確に行い高い目的意識をもって実習に臨んでいた。意欲の高い学生をはじめとして、実習に参加したほとんどの学生は一定の成果をあげ、それに対する評価を得ることができた。その一方で、様々な事情により動機づけが低い状態で実習に参加している学生も一部みられた。こうした一部の実習生に対しては、実習園から実習生への指導や本学の実習指導体制等について厳しいご指摘、ご指導をいただくこととなった。

#### (3) 浮かび上がった問題点

実習巡回の際の実習生の状況や実習園からのご指導などにより、保育実習Ⅱにおけるいくつかの問題点が浮かび上がってきた。その主なものは、「保育実習Ⅱに求められるレベルに対する認識の甘さ」、「専門知識の不足」、「記録をとる力の不足」、「健康管理が十分にできていない」などである。これらに加えて、電話のかけ方、あいさつの仕方、言葉遣いなど、保育技術以前の基本的な部分の未熟さに対する指摘も少なからずみられた。

### 3. 今後の課題

保育実習Ⅱで明らかとなった諸問題に対処するためには、我々指導する側が問題点と学生の実態を真摯に受け止めることが必要になる。とりわけ、「保育技術以前の基本的な部分の未熟さ」に関する問題は、1年次の保育実習、教育実習との連携・協力による対応が不可欠である。なぜなら、この問題は、保育実習Ⅱだけでなく本学幼児教育学科の実習全体の問題点といえるからである。今後保育実習Ⅱとしては、実習生が1年次の保育実習Ⅰで学んだことを生かすことができるよう、より効果的な指導体制をつくっていきたいと考えている。